

科目名	学校教育学特論	担当教員	中島 章夫
科目属性	専門科目 A	単位数	2単位 (面接 0.5 単位)

【授業の目的・ねらい】

我が国の初等中等教育は、「邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめんことを期す」という、明治初年の太政官布告、一般に「学制」と呼ばれる政府宣言によって、国が主導する形で始められた。明治20年代後半には、まず職業教育のシステムが、明治30年代には、これを含んだ中等教育のシステムが法制上整えられて、義務教育無償化の政策と相俟って明治40年代(1907～)には、義務教育就学率が90%を超えるという目覚ましい発展を遂げた。遅れて先進国の仲間入りを果たした我が国が、初等中等教育の充実という極めて地味で時間のかかる政策に重点を置いたことが、国民各層の努力もあって、その後の我が国の発展にとって、どれほど大きな発展の礎となったかは測り知れないものがある。

資源小国の我が国が、今日人的資源という大きな資産を誇れるのはこのお蔭である。

ただ、初等中等教育の制度はもとより、国定教科書により教育内容に至るまで国掛かりで進められてきた教育は、日中戦争(1937～)、大東亜戦争(1941～)という帝国主義の時代に入ると、国家総動員法(昭和13年)などとともに、制度・内容ともに軍国主義化を免れず、第二次世界大戦の終了(敗戦)によって、教育の制度と内容は、新憲法の制定と相俟って民主主義的なものに一新された。しかし、戦後既に70年を経過し、10数年ごとに改定が行われてきた学習指導要領によって、時代の進展に伴う教育内容の刷新が行われてきたにもかかわらず、わが国の初等中等教育は、教育の第一線で働く教師や地方教育委員会の関係者が、主体的な教育改革の責任者にはなり得ておらず、その本質においてお国掛かりであることは、戦前・戦後において変わりはない。

「初等中等教育」という営みは、児童・生徒という被教育者に対して、教育者である教師が働きかけて、それぞれの子供に最も幸せな人生を送れるための基礎教育を施すものである。我が国の伝統と文化を、次の世代の国民に正しく引き継ぐことは、国民共通の願いであるが故に、国民共通の基礎教育を行う初等教育については、国家が最大公約数としての教育内容の基準を準備することに異論はないが、特に中等教育以降の場合には、変化発展してやまない地域社会の産業構造や、そこに生活する青少年の希望や生活の実態を見守って、日々改善工夫を加えてきた教育現場の教職員や、地方教育委員会の担当者の努力と知恵こそが、次の中等教育カリキュラムの在り方を検討するに際して、中心的な役割を果たさねばならないことは理の当然であろう。しかるに我が国では、累次の教育改革が”国掛かり”で進められてきたために、中等教育においても、第一線の関係者が参加して教育を科学し創造する体制がほとんど育っていない。

今日ではグローバル・スタンダードとなっている、共生社会に必要な“共生教育”、つまり一人一人の個性を大切に、人を排除しない教育を実現するために、小・中・高をつなぐ学校段階のどの部分に主に問題が存在するのかを、一方で、わが国初等中等教育発展の歴史をたどりながら、他方では、戦後その制度の仕組みを学んだアメリカの教育等との比較を試みながら検証し、初等教育と中等教育の真の役割分担について、今後の改革の方向性を探ることとしたい。

【授業計画】

1. 小学校学習指導要領と発達段階別教育目標（第1～3回）
 - ① 低・中・高学年別に児童の発達段階と教育目標について考える。
 - ② 発達段階論及び発達課題理論等との対比で考える
 - ③ 教育目標との関連で各教科等の役割と教師の役割について考える
2. 学習指導要領の教育目標との関連で各教科が果たすべき役割（第4～6回）
 - ① 小学校学習指導要領の教科等別・学年段階別目標の問題点
 - ② 中学校から教科担任制に切り替わる意義と問題点を考える
 - ③ 中・高等学校学習指導要領の教育目標と各教科等の役割
3. 小学校教育担当の目から見た中学校各教科担当の役割（第7～9回）
 - ① 生徒の全人的な発達と成長の観点から中学校への注文は何か
 - ② 中学校の各教科等担当教員への小学校から引き継ぐべき観点
 - ③ 6・3制と5・4制の長短について考える
4. わが国初等中等教育の戦前・戦後の発展とその特徴（第10～12回）
 - ① 戦前の初等中等教育の発展を教科等構成と内容に見る
 - ② “Secondary Education for All” と戦後中等教育の拡充整備
 - ③ 戦後の学習指導要領改訂の経年的分析と検証
5. 共生教育の理念に照らしたわが国初等中等教育の欠落部分確認（第13～15回）
 - ① アメリカの公立高等学校発展の歴史と”総合制高校”の理念
 - ② ”共生教育”の理念に照らしたわが国初等中等教育の欠落部分の確認
 - ③ ”共生教育”“充実のためのシステムと実践面からの戦略

【評価方法】

授業計画の多くの部分を Web 上で行うため、その前提となる学習指導書の指示に従った、課題への日常の取り組みを、Web 上のやり取りや電話・ファックス等での対応で確認するとともに、スクーリングでの学習や事前学習や事後学習及びレポート課題への対応を重視したい。また、7月及び12月にそれぞれ予定しているスクーリングは重要で、学生諸君がそれぞれの経験や持ち場で体験している、生の課題を聞かせていただくとともに、いくつかの課題についてのディスカッションも用意したい。スクーリングでの成果は、今後の授業展開にも反映されていくはずであるので、疑問や希望等があれば、随時申し出ていただきたい。

レポート課題は、授業計画に示した五つの柱を中心とした学習に基づき、スクーリングの後、科目修得試験の前に、科目レポート提出を求める予定である。科目修得試験については、これは大学院の講座であるので、個々の柱についての知識を開陳するのではなく、授業計画の中の最後の柱、「共生教育の理念に照らしたわが国初等中等教育の欠落部分の確認」に関連して、学生諸君が大事と考え導き出した結論について、記述式で課する予定である。

評価については、Web 上の普段のやり取りとレポートの成果に約30%、スクーリングに約30%、科目習得試験に約40%のウェイトを置くことにしたい。

【教科書】

- ① 当科目担当者が『月刊高校教育』（学事出版刊）平成25年4月～平成26年3月の間に連載した、「見直そう！日本の中等教育」から、主要部分（学生ポータルサイトからダウンロード）

② 昭和26年版『学習指導要領一般編（試案）』のうち、「もくじ」及び「I 教育の目標」並びに「III 学校における教育課程の構成の1. 2.」（学生ポータルサイトからダウンロード）

【参考図書】

『この国の未来を創る学校』（日本型国際学校の可能性）（2006）

中島章夫・大迫弘和著 創友社刊（ISBN-13：9784915658563）

『ベーシックスクール』（アメリカの最新小学校改革提案）（1997）

E. L. ボイヤー著、中島章夫監訳 玉川大学出版部（ISBN-13：9784472099519）

『日本近代教育小史』（1984）

仲 新・伊藤敏行編 福村出版（ISBN-13：9784571100376）

『教科書で見る近代日本の教育』（1979）

海後宗臣・仲 新著 東書選書（ISBN-9784487794423）

注）『この国の未来を創る学校』は図書館などを利用してなるべくお読みください。

『教科書で見る近代日本の教育』は書店での入手が難しくなっています。

図書館などで利用してください。